

# 無料塾で進学へ意欲

## ここにいるよ

### 沖縄 子どもの貧困

⑥

## 第1部 群像

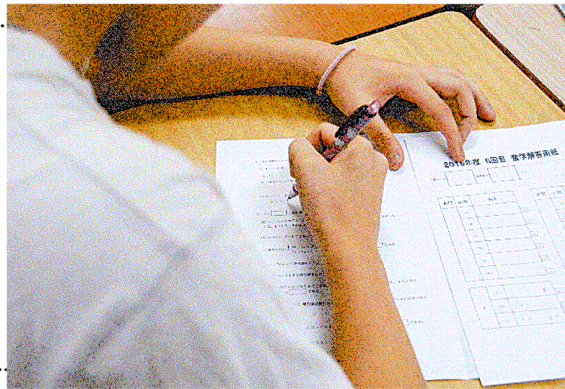
那覇市内の無料の学習塾。夕方、生徒たちが集まってくる。生活保護世帯や困窮家庭の中学生のため、市の委託を受けたNPO法人エンカレッジが運営する。市内の中1〜3年まで90人以上が通うが一般の塾のように親が車で送迎する光景はない。中3のミサキは1年の夏から通い始めた。40代の母、20代の姉、4歳の弟の家族4人で生活保護を受けて暮らす。幼い弟の世話は主にミサキの役目。体調が思わしくない母を助け、食事の支度や片付け、掃除、洗濯などの家事を手伝う。自宅は手狭で自分の部屋や勉強場所はない。いつも弟がついて回り「家では勉強できない」と悩んでいた。

成績は下がる一方だった。定期テストで一桁の点数だったこともある。授業についていけなくなっていたが、塾に通える家計状況でないことは分かっていた。部活も弟の保育園送迎との両立ができずに辞め、何に対してもやる気をなくしていた。「行きたい高校にも行けず、このまま夢を諦めるんだ、って思ってた」

エンカレッジの教室に通い始めたころは学習態度や言葉遣いを注意されることも多かった。だが講師や他校の友達に刺激され、徐々に意欲を取り戻した。「数学とか意味分からんって諦めていたけど、根気強く取り組むことで問題が解けるようになった。次も頑張ろうって思える」中3になり、ほぼ毎日教室に通っている。成績は平均点を超えるまでに上がった。学校で褒められた経験はほとんどなかったが、先生から「見違えるほど成長したね」と褒められた。「どうせ自分は駄目だと諦めがちだったけど自信ができてきた」

2014年度の県内生活保護世帯の高校進学率は84%。全体

の96%と比べ12%低く、6、7人に1人は進学していない。エンカレッジの坂崎紀理事長は「高校に進学しないと将来の選択肢は大幅に狭まり、貧困の連鎖につながる。教育は未来への投資。格差をなくし、沖縄の将来を担う人材を一人でも多く育てたい」と話す。那覇教室は14年度、43人全員が進学した。



学習支援教室（無料塾）で数学の問題に取り組むミサキ（那覇市内）

# 夢は諦めるんだって思ってた

ミサキの将来の夢は「優しく、頼りにされる保育士になること」。弟の面倒を見るうち、子どもと関わる仕事に憧れた。近づく高校入試に向け、「頑張れ、と母が励ましてくれる。志望校に合格して喜ばせたい」と話す。母がかつて、取得したかった資格を経済的理由で諦めた、と最近知った。反発心は感謝の気持ちに変わってきた。

「塾のおかげで自分が変わることができた。塾の先生のような、人のために一生懸命になれる大人に私もなりたい」。2年前は想像できなかった未来を思い描く。

（文中仮名）

・田嶋正雄 〓火々木曜日掲載

記事に関するご意見、情報をお寄せください。

ファクス：098(860)3483 メール：kodomo-hinkon@okinawatimes.co.jp